

会頭講演

Raise to a higher dimension

西本 隆

医) 岐黄会西本クリニック 神戸大学医学部附属病院漢方内科

古来、奈良、京都と大陸を結ぶ海上交通の要地であった兵庫、自由都市として栄えた堺、そして、漢方生薬の集積地としての大坂、これらの伝統を持つ地に、1976年、日本初の県立東洋医学研究所が、中医学と日本漢方、そして現代医学をも包括する研究施設としての理想を持って発足した。その初代顧問であり、研究所の精神的支柱であったのが、当時関西において唯一「一貫堂医学」を実践していた中島紀一（隨象）である。彼の元には多くの俊英達が集まり、その後、ある者は中医学を生涯追及し、ある者はこれまでにない新たな伝統医学を求め、また、ある者は、現代医学との融合を目指した。そして、現在、彼らの次の世代が、未来に視線をおきながら自らの道を歩んでいる。

今、東アジア伝統医学を俯瞰したとき、そこにも、さまざまな主張、方法論があり、それらは、過去の歴史や地域などを多元軸として複雑に絡み合っている。その中にあって我々が目指すべきものは、それらを単純に統一しようなどという短絡的志向ではなく、お互いを認め合い、個々の良さを引き出しながら、東アジア伝統医学を前に進めていくことであると確信している。この、「多彩な価値観を許容する」ことこそが、中島隨象の、そして「なにわ」の遺伝子ではないかと感じながら。（文中敬称略）